

カラー版は『<http://www.toyonaka-osa.ed.jp/cms/tesima/>』でご覧ください。

令和8年（2026年）4月23日（木）に小学校6年生を対象に行われました全国学力・学習状況調査における本校の結果についてお知らせします。

全国学力・学習状況調査の結果について

～今年度の6年生が『5年生までの既習事項』をもとに行ったテストの結果～

【豊島小6年生-国語科での強みと課題】

◎強み・・・思考判断表現（話すこと・聞くこと）の領域

- ・資料を用いる際に実際の音を書き示す、説明したい部分を大きく映して映像で示すなど、言葉の説明だけでは分かりにくい内容が伝わるように工夫していることに気付く問題。

▽課題・・・知識技能（情報の使い方に関する事項）（書くこと）の領域

- ・集めた情報の中から、本の題名と本文の一部の内容を選んで抜き出して書く問題に課題あり。この問題では、抜き出した部分はかぎ（「 」）でくくり、自分の考えと区別して140字以内で書くことが求められた。

▽課題・・・思考判断表現（書くこと）（読むこと）領域、記述式の問題

- ・【文章】を読んで考えたことを、【文章】から言葉や文を取り上げ、自分の経験と結び付けて書く問題に課題。

【豊島小6年生-算数科での強みと課題】

◎強み・・・「数と計算」の領域

- ・小数が整数と同じ仕組みで表されていることを理解し、条件に合う数字を作ることができる。

▽課題・・・「数と計算」、「図形」、「変化と関係」、「データの活用」の領域、記述式問題

- ・体積の意味について理解している
- ・数を四捨五入して、概数で表すことができる
- ・百分率で表された割合と比較量から、基準量を求めることができる
- ・単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商から二つの広場のどちらの方が混んでいるのかについて判断できる
- ・整数と小数の引き算の計算をすることができる
- ・異分母の分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる
- ・数直線上の分数が表す目盛りを捉えることができるかどうかをみる
- ・表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる
- ・帯グラフの特徴と用い方を理解し、およその割合を読み取ることができる



【児童質問紙から見た豊島小6年生の強みと課題】

◎強み

- ・「毎日同じ時間に寝ている。」
- ・「人が困っているときは、進んで助けている。」
- ・「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をするか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」
- ・「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。」
- ・「国語の勉強は好きだ。」



◎課題

- ・「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等（以下、「スマートフォン等」）でSNSや動画視聴などをする時間（スマートフォン等を使って学習する時間やゲームをする時間は除く）」
- ・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。」
- ・「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う。」
- ・「学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思う。」
- ・「これまでに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたか。」

【まとめ】

《学習において》は、本校がここ数年取り組んできた国語科の研究の成果が現れていた部分もあったり、学校図書館を利用して読書に親しんだりしていることがわかりましたが、一方で今回調査を行った国語、算数のどちらの教科においても「基礎学力の定着」が大きな課題として見えてきました。加えて、豊中市が進めている「情報活用能力の育成（1人1台端末の活用）」の活用についても課題が浮き彫りになりました。

《児童質問紙の回答》については、全国平均や大阪府平均を上回る肯定的な回答がたいへん少ない結果となりました。「自己肯定感が低い」、「自分らしく過ごしにくい」といった学校での課題や「家庭でのスマホの利用時間」など、家庭でのご理解とご協力が必要な項目もたくさんありました。

【学校の取り組み】

- ・研修会を開催するなどして課題を教職員で共有します
- ・課題については、子どもたちにも日ごろから意識させます
- ・基礎学習の定着（特に低学年）に力を入れます
- ・「情報活用能力の育成（1人1台端末の活用）」の活用や「基礎学力の定着」を意識した授業改善を進めます。
- ・子どもたちの自己肯定感を高め、自分に自信がもてるような取り組み（学級活動や集団作り）を充実させます。

★豊中市全体の分析結果につきましては、豊中市HP、または、学校HPをご覧ください。

★このテスト及びアンケート結果は、子どもたちの学力や学習状況学校の教育活動などのすべてを表すものではありません